

『 研 究 』

寄 生 虫 学 講 座 福 間 利 英

今更であるが、捏造は論外のこと、研究過程とその成果には **new (original)** であることと **unique** であることが条件として要求される。

育種や醸造・発酵など生活上の問題を解決することが、生物学上科学的に重要な発見をもたらした時代があり、近くはパスツールの例が挙げられる。しかしながら、現今では所謂基礎的な研究と応用の利く研究との乖離が指摘されている。そのような事への反省からそれを有機的に繋ごうという動きになっており、研究者間あるいは分野間で共同する事が勧められる。そのような乖離が生じたのは物理・化学で言えば分解できない最小の単位が **atom** でなく、更に微小な素粒子による構成を考えなくてはならなくなったし、生物学で言えば、生命の起源について考えなくてはならなくなったことが一つの大きな要因である。人々の生活に貢献した醸造の発酵と腐敗、いわば葡萄酒の病気に関するパスツールの研究は、生物の自然発生を否定して、感染による病気についても基本的な考え方を提示した。他方、それ以前により基礎的な研究として、結晶の左方と右方の別つまり不斉をみいだしている。長い目でみると太古には生物の自然発生があったわけで、この結晶学の成果は生物起源の研究に繋がる予感を持っていたようであるが、当時は、綿密でない実験をもとに微生物の自然発生を唱える人があり、それに対抗するために、強く自然発生を否定したようである。

冒頭にあげた **new** と **unique** という条件か

ら言うと、どちらかといえば応用的な研究より基礎的な研究に重きがおかれる。後者が応用からずれていると直ぐには言えないと同程度に前者でも忠実に綿密な観察と測定が十分に **new, unique** な研究を可能にするはずである。

話が大きく変って恐縮であるが、「コペルニクス的転回」という言葉がある。古くから天体観測は行われ、我々の「地」が球と判ってからは一層、天体が円を描いていることはほぼ共通した見方であった。観察・計測が詳細になるにつれて、黄道の傾斜や時に逆進する天体など、矛盾が生ずると、地球を中心とする天動説側は大きな軌道円に小さな軌道円を組み合わせるなどして説明していった。天上にある天体が動いていると言う見え方に困われて、それに都合良く合わせるように説明していったから複雑な構図を付加する必要があった。考えを「地球も一つの軌道円を動いている」に変えると、矛盾が少なく、互いの位置を変える惑星の数だけ楕円軌道を想定すればよく、地軸の傾きを入れると黄道の傾きも説明できることになり、コペルニクスにより地動説が提唱され、望遠鏡による更なる詳細な観測にも合うことになり、ガリレオも地動説に傾いた。現象の観察と計測に忠実になり習わしの囲いを出て、パラダイムを変える結論を得た。

ガリレオの没年に生まれたニュートンは運動と力について大系化して自然認識パラダイムを変える大転回「プリンキピア」を著した。公理

ともいえる3法則のひとつに、遠心力と釣り合
って円運動を与えている求心力を定め、物体間
に働く引力を提唱してケプラーなどによる天体
の動きの法則を理論的に説明でき、未知のこ
とも予測可能にした。天体運動の法則を導き出
すことにより足場の転回をもたらしたけれど
も、ガリレオたちは物体を投射したときの運
動、着地点は正確に予測できなかった。ニュ
ートン以後いまでは技術の開発により人工の
天体を操ることができるようになってい
る。たしかにガリレオは地球の引力つまり
重力を明確には意識せずして重さ（質量）
の違いに依らず物体の落下

速度は等しく、同時に着地することを証明
するに至った。これは振り子について綿密な
試行と計測のたまものである。振り子運動
を与える力について何か感じていたのだが
明確にできなかった。

これまで伯楽の側について触れられたこ
とが少ない。われわれ指導者は若い研究
者の最初の囲いにもなる。因われないで
名馬が育つような囲いが必要である。



事務通信Vol.1

修士課程第2学年学生の皆様へ 学位論文提出と年度末スケジュールについて

1. 学位論文申請書類と提出期限

〔提出期限：平成18年1月27日（金）17時（時間厳守）までに医学部事務部庶務課に提出〕

①学位論文審査願：1通 ②主論文：5通（印刷公表が望ましい）③参考論文：各3通（作成している者のみ）④論文目録：1通 ⑤論文要旨：1通 ⑥履歴書：1通 ⑦単位修得証明書：1通（教務課にて準備する）⑧写真（4×3cm）：2枚【①④⑤⑥については所定の書式を医学部事務部庶務課にて準備しているので各自問い合わせること】

2. 口述試験〔期間：平成18年2月1日～2月16日〕

3. 学位記授与式〔平成18年3月22日〕

前期入学試験結果

10月18日に行われた医学研究科前期入学試験の結果は下記のとおりとなっております。後期試験については本レター4頁のとおり実施いたします。

	志願者数	受験者数	合格者数
修士課程	8名	8名	8名
博士課程	9名	9名	8名

ティールーム



さる平成17年9月に文部科学省・中央教育審議会から「新時代の大学院教育—国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて—」という答申が出された。この答申はわが国の国際協力のさらなる増強と科学技術創造立国実現のために、大学院教育が担う役割を具体的な指針として答申されたものである。いわば数年前に出された卒前医学教育のコアカリキュラムに関する「答申」を受けた「卒後医学教育版（大学院教育版）」とあってよいだろう。

この答申で最も注目すべきは、文部科学省が来る大学院教育改革を「大学院教育振興プラットフォーム（仮称）」というイメージで具体的に答申したことにある。その中で「平成18年から平成22年までの5年間で具体的な改革を実施する」とされている（プラットフォームの詳細は別掲を参照のこと。答申はホームページ上でも公開されており、以下のアドレスを参照されたい）。もう待たなしの大学院教育改革なのである。

本学大学院医学研究科においても、この5年間（平成12～16年度）で大きな大学院改革を実施した。特に平成13年度の医学研究科修士課程医科学専攻の設置や平成15年度の博士課程内科系・外科系専攻を個別最適医療系専攻へ改組転換したことが大きなウエイトを占めている。これらの改革は今回の答申を一部先取りしたものである。

しかし、今後は大学院制度を国際的に通用し、国際競争力を強化する制度として確立することが目的であることから、さらに大きな改革が見込まれている。例を挙げれば、大学院設置基準の改正や現行制度の見直しを含む新たなコースワーク（基礎医学研究と臨床医学研究）の設置、短期履修コースの設置、専門医のためのカリキュラム設定などの他、学位授与制度の改革、専門職大学院の充実も考えられている。一部の改革はCOEのように重点的に予算配分することも考えているようである。本学もこれらの動きを注視しつつ、可及的速やかに議論を活発化させ、よりよい大学院改革が実現することを願ってやまない。

（医学研究科 科長 赤須 崇）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05090501/all.pdf

大学院教育振興プラットフォーム（仮称）のイメージ（案）

1. 今後の大学院教育の改革の方向性

各大学院における教育の実質化、学位の国際的な通用性、信頼性の向上を図り、また世界的な教育研究拠点の形成等により、国際的に魅力ある大学院教育の構築を進める。

具体的には、次に掲げる改革の方向性に沿った施策を実施する。

- ◆各課程ごとの人材養成機能（目的・役割）の明確化
- ◆大学院教育の実質化（教育の課程の組織的展開の強化）と円滑な学位授与
- ◆国際的な通用性、信頼性の向上（大学院教育の質の確保）
- ◆組織的基盤の充実と卓越した教育研究拠点の形成（世界規模での競争力の強化）
- ◆若手教員（研究者）等の教育研究環境の改善（キャリアパス等に対応した体系的な支援の実施）

2. 実施期間

平成18年度から平成22年度までの5年間

※ただし、制度改正については、できるだけ早期の実現を目指す。

3. 具体的な取組施策

◎：主として制度改正に関する事項 ○：主として取組支援に関する事項

(1) 大学院教育の実質化

- ① 教育機能の抜本的充実
 - ◎課程の目的、単位の考え方の明確化
 - ◎修士課程及び博士課程（前期）の修了要件の見直し
 - ◎FDの実施
 - 優れた大学院教育の組織的展開・普及
 - 各大学院における取組状況を広く情報提供
- ② 学生への経済的支援
 - ◎奨学金の審査の早期化
 - 特別研究員、TA、RA等の資金制度の活用
- ③ 若手教員（研究者）の教育研究環境の改善
 - キャリアパスに応じた体系的支援
 - 世界水準の教育研究環境の実現

など

(2) 国際的な通用性、信頼性の向上

- ① 実効性ある大学院評価の取組を推進
 - ◎成績評価基準の明示と厳格な成績評価の実施
 - 専門分野別自己点検・評価の促進
 - 専門分野別第三者評価機関の形成・導入
 - 専門分野別自己点検・評価結果の整理・公表
- ② 国際貢献・交流活動の活性化
 - 各大学院の国際化戦略支援

など

(3) 産業界等と連携した人材養成機能の強化

- ① 産業界等社会のニーズと大学院教育のマッチング
 - 産学協同教育プログラムの開発・実施
 - 実践的なインターンシップの実施
- ② 産業界等と大学等の人材の流動化
 - ◎博士課程短期在学コースの創設
 - 大学院入学後の補完的な教育プログラム等の実施

(4) 国際競争力のある卓越した教育研究拠点の形成

- 21世紀COEプログラムの充実とポスト 21世紀COEプログラムの具体化

平成18年度大学院医学研究科後期入学試験概要

試験日程

- 後期（修士・博士ともに同一）

出願受付期間：1月30日（月）～2月10日（金）※注：ほかに出願資格審査期間を設定

試験日：2月21日（火）

合格発表日：3月15日（水）午前10時

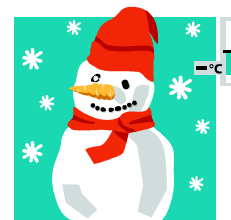
試験内容

- 修士課程（基礎医学群・社会医学群・分子生命科学群・臨床基礎看護学群）：英語・小論文・面接
（バイオ統計学群）：英語・面接
- 博士課程：英語・面接

出願資格・出願手続き等

本学大学院医学研究科ホームページ、若しくは各課程平成18年度募集要項にて確認のこと。

ホームページ：<http://www.med.kurume-u.ac.jp/med/gmed/index.html>



事務通信Vol.2

博士課程第1学年学生の皆様 研究題目調査実施について

博士課程第1学年学生の皆様を対象に平成18年2月中旬ごろ研究題目調査を実施します。この調査は博士課程在学中の各自の研究テーマを調査するためのもので、久留米大学院医学研究科規程第6条に基づき第2学年前期の始まる前までに調査することと定義されております。調査書類が参りましたら、期日までに必ず医学部事務部教務課まで御返送下さい。

博士課程第4学年学生の皆様へ 学位に関する調査について

博士課程第4学年学生の皆様を対象に、平成17年9月より今年度の学位論文提出に関し、「研究題目調査」「学位論文提出時期に関する調査」を実施してはりましたが、まだ未提出の方がおられます。未提出の方は至急医学部事務部教務課までご提出下さい。なお、本調査は今年度学位論文を提出する、しないに関わらず、必ず提出していただくこととなっております。該当者の方のご協力をお願い致します。学位論文申請に関するお問い合わせは医学部事務部庶務課にて受け付けておりますので、ご連絡下さい。

また、2月中旬を目途に在学期間延長に関する調査を実施する予定です。ご協力をお願いいたします。

編集後記

早いものでもう平成17年度も師走を迎えました。12月に入り寒い日が続いておりますが、体調管理には充分お気をつけ下さい。（俊）